

都道府県番号	5
都道府県名	秋 田 県

(    )

・学校名及び規模

鹿角市立花輪第一中学校						
	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	4	4	4	0	12	21
生徒数	110	121	130	0	361	

・実践研究の概要

<p>・主題（テーマ）</p> <p>生徒一人一人に応じた指導の工夫 ～「確かな学力」の向上を目指して～</p> <p>・テーマ設定の趣旨</p> <p>昨年度「自ら学ぼうとする力・自ら考える力の育成～自ら学び、考え、積極的に表現することができる授業づくり～」を研究主題に掲げ、本校では、生徒の主体性を生かした学習活動や指導方法の工夫を研究してきた。その結果、授業や諸活動で生徒の生き生きした姿が見られるようになった。また、客観的な諸検査にも、その成果が表れてきた。しかし、「生徒一人一人」という切り口で見直すと、個々の能力を十分に伸ばすような指導ができたとは言えない。</p> <p>「学力」とは、基礎・基本を基にした自ら学ぶ力や自ら考える力であり、それが「生きる力」につながると、新しい学習指導要領ではとらえられている。本校では、これまでも「学力」は上記の力ととらえ、全教科で教科研究を進めてきた。この研究もまた同様に全教科で生徒一人一人の実態に応じたきめ細かな指導の充実を図ろうと考えている。</p> <p>具体的には、「学力向上フロンティア事業」の趣旨を生かしながら、個に応じた指導のための教材開発、指導方法・指導体制の工夫改善、学力の評価を生かした指導の改善の3つについて研究実践を進めている。研究一年次である今年度は、特に個に応じるための指導方法・指導体制の工夫改善を中心としながら、研究に取り組んできた。</p>
---

・実践研究の内容について

( ) 研究体制の工夫

- ・研究推進は、全校体制、全教科で取り組むこととした。そのため、研究組織は、「研究部」と「学習指導部」が連携し、各教科の研究推進を研究部、授業改善の推進を学習指導部が行った。

( ) 実践研究の内容

- ・研究内容については、次に掲げる研究の柱に基づき、各教科で具体的な実践内容を考えた。

研究の内容

- ・授業改善のポイント「確かな力を付ける授業づくり」の推進
- ・補充的な学習や発展的な学習など個に応じた指導のための教材開発
- ・少人数学習集団での学習、習熟度に配慮したＴＴの改善など、個に応じた指導方法や指導体制の工夫改善
- ・目標に準拠した評価を生かした指導の改善

研究の方法

- ・「確かな力を付ける授業づくり」のチェックポイントを作成し、それを活用した授業改善の推進をする。
- ・ に記した柱をもとに各教科で研究実践内容を設定して取り組む。
- ・全教科の研究会、初任者実習校研修での授業実践などを通して、教科の研究実践を深める。
- ・鹿角市で実施したN R T検査（５月実施）、秋田県で実施した学習状況調査（７月実施）、教科の学習についてのアンケート（１２月実施）を活用し、具体的な数値を基に生徒の変容をとらえ、研究の成果と課題をまとめる。

( ) 成果と課題（生徒のアンケートなどから顕著な取り組みを掲載）

「確かな力を付ける授業づくり」のポイントを明確にし、学習指導部による学校全体としての推進や各教科の重点に基づいた取り組みを行った。

- ・「何を学習するのかわかるような学習課題を提示する」

【理科】授業最後のまとめを課題に結び付けることで、課題と学習のポイントの明確化につながった。

- ・「学習意欲を高めたり、理解を助けたりするための教育機器の活用を工夫する」

【社会・理科・英語・音楽・美術】デジタルカメラ、教材提示器、コンピュータ、V T R、D V Dを活用することで、関心や意欲を高めたり、理解する上での一助となった。

- ・「学習のねらいに基づき、学習形態を工夫する」

【国語】グループ学習で役割を明確にすることで、効果的な学習ができた。

補充的な学習や発展的な学習など個に応じた指導のための教材開発

- ・【英語】選択英語においてコース別で、次のような教材の工夫を図った。アンケートの結果、選択履修生徒の64%が「とても役立った」、31%が「まあまあ役立つ」と回答した。

「基礎コース」	・スモールステップ方式の市販の問題集を使用した。2、3年生は前学年のものを使用し、最初からていねいに取り組ませた。1年生は1年生用のものを使用し、授業と並行しながら、つまずきやすい単元の前から取り組ませた。毎時間、学習記録をとらせ、各自のペースで進めた。必要に応じて、個別指導や一斉指導をすることで、支援を図った。
---------	---

	<p>教材がスモールステップであったこと、教材の内容も基本本文中心でねらいを絞ったものであったため、苦手な生徒にも効果的であった。速い生徒は、次学年の問題集へと進むこともできた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本本文を十分理解できない生徒には、語彙を学習するプリントを作成し、取り組ませた。表にまとめさせたり、語彙を基にした問題練習を行った。</li> </ul>
「発展コース」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「英語検定試験挑戦コース」では、市販の検定試験用の問題集に取り組んだ。試験前には、問題集付属のリスニング教材にも挑戦した。</li> <li>・「長文読解コース」では、生徒自らが選択した物語や教師が用意した教材を読み進めていく活動をした。教師が用意した教材は、できるだけ日常生活にかかわる身近なトピックを用意した。また、調べた語句は、語句リストにまとめさせることで学習の跡が見えるように工夫した。</li> <li>・「作文コース」では、基本本文を応用した条件作文や自由作文などに取り組ませた。作文のコツや基本本文の活用のポイントなどは、適宜、一斉指導で支援した。</li> </ul>

- ・【数学】授業で扱う学習シートの形式を、A：既習事項の確認や本時の内容にかかわる基礎事項、B：本時の課題とその解決、C：本時の内容の確認問題、D：発展問題、と統一した。基礎的・基本的な学習内容から発展的な学習内容まで対応できるようにした。また、家庭での問題練習にも対応できるように、本時の学習内容で解くことができるワークのページを載せた。生徒も整理しやすいため、アンケートでは、96%が肯定的に受け止めていた。
- ・【保健体育】選択体育では、より多くの教師が担当することで、学習内容を増やし選択幅を広めたが、履修者が多いため、そのかわり方を工夫する必要がある。個に応じた指導方法・指導体制の工夫改善
- ・【国語】地域の人材を活用した毛筆書写を行った。
- ・【数学・英語】TTで行う授業では、無作為、習熟度別、学習活動別など学習内容や指導のねらいに合わせて、1つのクラスを分けるなどの工夫をした。

( ) 成果の普及方策

- フロンティアスクール花輪小・花輪一中連絡会（平成14年6月4日）
- ・小・中NRTの分析
- ・小・中教員によるTTでの授業
- ・フロンティアスクールとしての研究内容の報告  
第1回授業研究会（平成14年7月5日）
- ・全教科の研究授業、各教科分科会、全体会  
秋田県教育研究発表会（平成15年2月13日）
- ・県内の参加教職員への研究一年次の報告  
ホームページ上での研究内容の紹介
- ・平成15年3月にフロンティアスクールとしての取り組みを公開